

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月11日（金）午後7時05分～8時55分
場 所 上庄小学校 体育館
出席者 上庄小学校区児童保護者 30名、上庄小学校長
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 開成中学校と陽明中学校が残っていくのは仕方がないと思うが、施設は一番古い。老朽化の問題はどうか。

市教委 確かに、開成中学校や陽明中学校は、上庄中学校と比べると古い。一般的には、60年程度の耐用年数と言われている。今後、何らかの改修が必要となれば、対策を行いたいと考えている。それについては、今後の話となる。

参加者 今、小学校6年生が18名、5年生が16名で、自分の子は小学校5年生である。5年生が中学校2年生に上がる時に、開成中学校と一緒にになる。今の6年生が中学校1年生から開成中学校に行きたいという子も出てくると思うが、そういった場合はどういった対応を取るのか。また、2年ほどあるが、再編が早まることはあるのか。

市教委 今年（案）を取って計画にすると、「あと2年」が、もう少し早くならないかということで良いか。その答えとしては、先ほどの説明でも述べたが、結論から言うと、2年間という期間が必要ということ。それは、乾側小学校の例を見ても、学校と学校が一つになることや校区や地区が広がって一つになるということ、そして乾側小学校は、校舎のこともあったため、1年間となり少し急いだような感じになった。子どもたちのことを考え、保護者との準備をしっかりとしていこうと思うと、令和4年度に準備の会議をして、令和5年度に交流を行う準備をして、2年間は必要だろうという実感がある。早く行きたいという子がいた時にはどうするかについては、今、明確な規定を持っているわけではない。ただ、今の規定に照らすと、皆と同じように一緒に行っていただけないかというお願いになる。そういった声を持っている方もいると思っているため、その声が大きくなってくようであれば、こちらの考え方も説明しながら意見を伺いたいと思う。

参加者 登下校の負担軽減として8ページに、スクールバスの運用と書いてある。

大雪の場合は、登校時間を遅らせるなど、こういった対応を取るのか。美術の教員が配置されていないのは、なぜか。

市教委

1点目について、今年のような雪も当然ある。結論から言うと、そのような状況になった時は、教育委員会と校長会が早めに相談し、適切な対応を取る。今年のように、臨時の休業にすることもあると思う。また、学校によって登校時間を遅らせるということもある。今、タブレットを1人1台持つようになったので、遠隔での授業参加なども可能になる。しっかり対応していきたい。

2点目について、7ページを確認いただきたい。ここには、学級数は書いていないが、例えば令和3年度の開成中学校の現在の学級数は、1年生が3学級、2年生が3学級、3年生が4学級ある。昨年度は、1年生が3学級、2・3年生が4学級あった。この時には、全ての専門教科の免許を持つ教員を配置することができた。基本的に教員の配置は、学級数によって決まってくる。令和3年度は、学級数が減ったために家庭科の教員が1人配置できなくなった。このために、例えば国語の教員が家庭科の授業をするということを行っている。上庄中学校でも現在同じ。そして令和6年度の上庄中学校との統合によって、7ページの下にある4学級となり、専門教科の教員配置が可能になる。

参加者
市教委

現時点で、専門の職員を派遣する全体数が少ないということか。

基本的に、県の教育委員会に配置する基準があり、学級数によって決まってくる。その関係で、配置は難しいということになる。

参加者

中学校は通学距離が6キロ以上の場合、スクールバスということになっているが、冬はどうするのか。

市教委

スクールバスの運行については、概ね6キロということで、文部科学省から示されている。例えば冬期間通学が難しいということであれば、皆さまとの協議の中で、どのように運行していくかということを決めさせていただく。その時に、保護者との準備委員会の中で協議したいと考えている。

参加者

体操服や内履きなど、段階的に統合されることが決まっているのであれば、その前からその中学校に通っている生徒たちは同じ体操服を着れば良いのではないかと思う。校章が変わるのであれば、その校章を統一するわけなので、その校章の部分だけ変更できるような手法は取れないか。

市教委

(案)がとれた段階で、早い段階から準備委員会で協議し、今言われたことを行うことも可能だと思う。早め早めの準備は、子どもたちにとっても大事になってくる。

補助はあるが、ある一定期間そのまま使ってもらって、混在するような期間があっても良いのではないかと思う。今、乾側小学校の子が下庄小学

校に行っているが、ランドセルを背負って行っている子もいる。子どもが目立つのが嫌だなと思ったりするとなると、揃えてあげたほうがいいのかと思う。今言うように早めに再編前から揃えても良いと思う。そのあたりは、早めに相談して準備を進めたい。

参加者
市教委

スクールバスの運行を上庄校区の全てに拡大できないか。

そういったことも相談していきたい。資料に記載してあるのは文科省の基準である。これに沿って考えると6キロ以上じゃないとダメなのかということになるが、今乾側小学校の子は全員がバスで下庄に行っている。あまりこだわらず、できる限り通いやすいように相談しながら進めさせていきたい。

参加者

もし範囲が広くできないということであれば、インフラの整備も考えてほしい。通学路について、暗いところや住宅の無いところなど、通学に不安な所もあるので、その点も考えてほしい。

もう1点、制服の件だが、子どもたちは周りとは違うというのに敏感だと思があるので、「着たい人がいれば着れば良いのでは」と安易に大人が言うのは、最悪いじめに発展する場合もあると思うので、慎重に考えていただきたい。

市教委

インフラの整備について、街灯が無い所を歩く不安さは十分に分かる。当然心配になるので、そういった箇所の整備は十分に行っていきたい。現在でも通学路は学校の関係者が集まって点検や改修など進めている。例えば、自転車通学の段差や川などの話が出てくると思うので、意見をいただきながら、改修していきたいと思う。

制服の話だが、阪谷小学校の保護者の方と話した際は、もったいないからこのままでという話も出ていた。富田小学校と同じナップランドを使っているが、富田は1色で統一されていて、阪谷は自由でさまざまな色がある。しかし、それで良いのではないかという意見もあった。結局、保護者負担があることであり、話し合いの中で決めていくことになる。我々はそこに支援させていきたいと思う。

参加者

統合することによって子どもたちが市街地へ集中することになるが、その際に市外から帰ってくる人、新しく入ってくる人で子どもを連れてきた場合に、こういった郊外となる上庄地区に入居しやすいような支援とかは考えているか。今、この状態だと過疎化が進んでしまうと思う。

市教委

これまでも空き家が増えていて、その空き家を活用してそこに住んでもらう取り組みが進められている。実は、中心市街地も過疎化が進んでおり、市街地だからとか村部だからという区別はできなくなっている。市街地から周辺の新興住宅地に人口が増えているようなイメージがあるが、移住や住宅取得の支援に力を入れている。

- 参加者 先ほどの先生の配置の件で、財政負担の面なのかと思っていたが、県が配置をできないと決めてしまっているということなのか。
- 市教委 県内の教職員については、県費負担教職員と言って、県が給料を支払っている教職員となるため、福井県が決めた教員の配置基準となる。今、国は35人学級の実現を進めているが、福井県はより早く対応していて、1～6年生までは35人学級。中学校は32人学級で、他の県よりも多く配置されている状況であり、学級数で配置数が決まってくる。上庄中学校と開成中学校が統合すれば、専門教科の配置が可能となる。
- 参加者 そうすると市の財政状況とは全く関係ないということか。
- 市教委 そうである。例えば教育支援員など市が派遣している職員もいる。学校の中に市で雇用している職員もいて、サポートに当たっている。
- 参加者 資料11ページの教員数は、市で雇用している職員とは別の数字なのか。
- 市教委 これはすべて県が雇用している県職員である。
- 参加者 体操服が移行期間、混在しても良いという話であるが、資料8ページには、統合先の学校の学用品を購入するという文言があり、5ページには、校名、校歌、校章等も新しいものに検討されるとしている。それならば新しい学校がスタートすることなので、前の中学校のどちらかの学校用品に寄せるというのは、この方針とは矛盾するのかなと思う。移行期間なので数年間混在することはあっても良いと思うが、それはそれぞれの家庭の判断のなかで決める、もしくは新しい学校が開校する際に、全くどちらの学校にも寄っていない学校用品を提示していただいて、それを購入するなどの選択肢を作って、最終的に全く新しく購入する学年からは、それで揃えていくという方法で進めていただけたらと思う。
- 市教委 まず5ページの校名、校歌、校章というのは、将来の再編に向けての記述である。まずは、小学校の複式学級解消のため、9校を7校に、中学校においては、専門教科の観点から5校を2校にというのが、第1段階目の再編（案）である。4ページが今回。今後2段階目があるかどうかというのも可能性の問題ではあるが、段階的に進めていくという中の、5ページの将来の再編についてということである。ここでは、中学校が2校か1校かという選択も迫られることになると思うし、小学校の再編もこれで良いのかという検討になってくる。この件については、10年、もっと先の話だと捉えていただきたい。
- 参加者 今回の再編では、上庄中学校が無くなって、校歌や校章は開成中学校のものということで理解して良いか。
- 市教委 今回の段階についてはそのようにさせていただきたいと思う。
- 参加者 この計画が延期されるということはないか。

市教委 延期されるというのは、令和6年、8年が後ろにずれることはないかということか。結論から言うと、このスケジュールで行かせていただくとありがたいと思っている。

参加者 自分の子は中学校3年生で開成中学校に行くことになるが、そのときに4クラスになると書いてあるが、18人がどのようにクラス分けされるのか。あと、今中学校は部活が必須だと思うが、それは変わらないか。

市教委 クラス分けについては、相談していきたい。今、小学校から中学校への入学の時も、例えば有終南小学校が開成中学校に行く時は、4学級だったら、基本的には四つのグループに分かれて学級編成ということになる。上庄中学校の生徒が行く時にどうするかは、男女の比率もあるし、必ず四つに分けなければいけないということはない。相談していきたい。

部活については、現在必須だが、陽明中学校は外のクラブチームに加入しているときは、必ずしも部活動に入らなくても良いことになっている。また、部活動については改革が進んでいこうとしている時なので、柔軟に考えていけるのではないかなと思う。

参加者 今、(案)ということであるならば、制定されるまでの過程を教えてください。まだおかしいのではないかなと思う意見を述べる場があって、変更できるかどうか。

二つ目として、正直、開成中学校や陽明中学校の保護者は受け入れる側なので、さほど重要視しているように感じない。2年前に意見交換会で皆が納得できる形でと言っていたのではないかなと思うが、今、自分たちは納得せざるを得ない状況である。受け入れる側が重要視していないという状況の中で、今後、少しでも上庄中学校や尚徳中学校、和泉中学校への配慮が話の中で聞いてもらえるのかどうか。体操服や校歌をそのまま使えないか、名前も開成ではなく、全く新しい名前にするなど聞いてもらえるのかどうか。

市教委 1点目の(案)が正式になるにはどのような手続きになるのかということだが、説明会でお聞きしたことをまた検討委員会に報告をする。検討委員会からの報告書は、検討委員会がさまざまな側面からの検討をして出した取りまとめなので、報告書にあるような形で状況が進んでいるのか、全く違う大きな意見が出てきているのかということも把握しながら、丁寧に進めなければいけないと思い、今日お話を伺っているところである。この(案)は、一昨年に市内41カ所に行って、さまざまな意見を伺い、そして昨年度検討委員会を立ち上げ積み上げてきたものなので、この方向でご理解いただけるとありがたい。また、行政的な手続きとして、パブリックコメントがあり、計画案に対する意見を述べられるという機会がある。

2点目の件だが、そのように思われる方はいると思う。当然上庄の名前だけが消えてしまうという気持ちも十分に分かる。このため、さまざまな気持ちを受け止めながら進めて行きたい。その気持ちに変わりはない。しかし、開成中学校も陽明中学校も50年前に地域色を無くして、大野が目指す教育の方向を象徴するような校名にした。地域性というよりも大野の目指す方向を表現しているということをご理解いただけるとありがたい。10年後、15年後にもっと大きな判断を迫られるときには、十分に話し合っていかなければならないと思っている。

参加者

コロナ禍の現状のなか、統合して人数が増えるが、スクールバス等に関しても、今後きちんと対策を考えてもらえるのか。一番初めの計画案の時にスクールバスの質問をしたが、地区ごとに行くのではなく、上庄公民館に集合してそこから学校に行くという話を聞いた。公民館から遠い地区が多いので、そこは考えてほしいと言った件の答えも、今の感じでは決まっていない。統合するに当たって、このような質問の答えはいつの時点で教えてもらえるのか。

市教委

2年前の意見交換会で検討すると発言したかどうか、思い出せない。今、スクールバスの具体的な案は持ち合わせていない。具体化の段階で学校と保護者とで相談をしながら準備委員会の中で固めていきたい。コロナについても、いつ収束するか分からない中で、状況を見極めながらと思っている。コロナの状況が悪化し検討をしなければいけない状態になれば、そこを無理に突破するという考えも無い。上庄中学校の生徒たちにどのような環境を整備できるかというのが大前提なので、そのあたりは必要になればしっかり検討するという気持ちを持っている。

参加者

統合するに当たって、逆に開成中学校を上庄中学校に統合するということは無いか。

市教委

既存校舎を使用する計画である。上庄中学校も新しく良いのだが、そこに全員が入ることは難しい。また、開成中学校の生徒300人をスクールバスで上庄中学校にというのも難しい。決して小さい学校が大きい学校に統合しなければいけないという発想で出発したわけではない。お気持ちは十分に理解しながら進めていきたいと思う。乾側小学校と下庄小学校にしても、あくまでも学校同士で1対1の再編を行っている。乾側小学校の児童が胸を張って通えるように願っているし、下庄小学校の教員もそのように考えながらやっている。

参加者

統合するのは、校舎が開成になっても仕方ないと思うが、学校自体は新しい考えでスタートするので、移行期間を挟みながら、体操服の色やデザインなど使用する物を新しくしてスタートすることは可能か。どちらかの

体操服に寄せるということは、感情的にも何もかも開成に合わせるというのは、温度差に拍車を掛ける気がする。子どもたちも委縮しないかと心配。もし、配慮という中でしていただけるのならば、全く新しい学校がスタートするという形を取っていただけるのか。

市教委 例えば体操服について新しい色になるということは合意ができれば可能かと思う。それについても、1対1の再編なので調整させていただきたいと思う。決して、小さい学校が大きい学校へ吸収されて大きい学校に合わせなければいけないということではない。教育目標にしても、学校行事にしても両方の良い所を取り入れながらやっていきたいと思う。

参加者 少しでも上庄がどこかに残ってくれればと思う。

参加者 再編に反対されるという方もいると思う。以前の説明会で1人でも反対の方がいたら、再編しないと聞いている。多数決じゃないが、そういう意見集約をして、何をもって再編を決定する基準があるのか、無いのか。

市教委 100人が100人とも良いということは、基本的には無いことだと思う。1人でも反対という方がいたらどうするのかということだが、その方とはちゃんと話をしたいと思う。その方が本当に子どもたちのことを考えた時に、この案以上の妙案があるのであれば、聞かせてほしい。そしてその方が「うん」と言っていただけのためには、もう少しスクールバスをはじめ対応できる場所があれば、考えながら進めてさせていただきたい。温度差はあると思うが、全員に諸手を挙げてという話にはならないと思う。我々は、この3年間さまざまな方と話をし積み上げてきているので、ご理解をいただきたい。決定していく過程はしっかりさせていただいたと思っている。

参加者 再編に当たって、地域のことを学ぶという内容で、公民館の機能を強化することや、上庄中学校と開成中学校のことを学ぶということは、この忙しい中、今の地域を学ぶという時間が2倍になるということか。そのようなカリキュラムを大野市独自で作れるのか。

市教委 例えば、計画どおり統合になった場合、そのときに学校が無くなっても子どもたちは地域の子どもたちであることは間違いない。公民館を核にして、その子どもたちがふるさとで学んできたことを生かし、地区行事などに積極的に参加していくことを考えていきたい。この部分は大事にしなければいけない。例えば、平日の午後の上庄小学校の児童・中学生も入れて行事などを実施したいということになれば、そういった意味でのカリキュラムは可能になると思う。地域で大事に育てていただいた子どもたちが、中学生になっても地域で活躍できる子どもたちであってほしいと思う。教育委員会としても、全面的に協力をしていきたいと考えている。

参加者 公民館を核にしてということだが、実際子どもが町に出てしまえば、公民館に目を向けてくれる気がしない。それを大野独自の教育で長い目でみて、大野の人口が増える、子どもが増えるということを考えたら、今いる人に大野の魅力を伝えるべきだと思う。それを「教育上でこういうことをします」と言っただけならば、全ての地域の人が賛成できるのではないと思う。そういうことを考えていただきたい。

市教委 統合が進んでも、公民館行事に子どもたちが参加することや大人も一体となって地域を盛り上げることは、市全体の部分になると思う。ご意見を参考にさせていただく。

参加者 8ページの統合まで開成中との事前交流を行うと書いてあるが、中学校だけではなくて、小学校の間から他の小学校との交流ができないか。例えば、登校距離がさほど変わらないなどの理由で、開成中学校だけではなく陽明中学校を選択することはできるのか。

市教委 (案)が取れた段階で、小学校同士の交流は当然考えていかなければいけない。やはり中学校に上がった時に、少しでも仲間意識が高まっていて、違和感なく入学できるというのは大事なことだと思う。参考にさせていただいて、十分な交流をしていきたいと思う。

選択性の問題だが、家に帰っても大人が誰もいないなどの条件で、小学校だけ認めている。校区も広がっていくので検討項目の一つとなる。そのあたりも考えていく。

参加者 この用紙に関しては、全生徒に配る予定はあるのか。これを全家庭に配ってから、こういう案に関して話し合いをするということなら分かる。ここにきて、この資料を配って今この話をするというのは違うと思う。この資料で話をするということで、何か意見をもってきてほしいということなら、みんな意見を持ってくると思う。今の状況で細かい話をして、結局は話し合いでということになってしまう。逆じゃないかと思う。

市教委 そうならないよう2年間、特に去年は検討委員会の様子や結果をホームページに掲載するなどして報告している。今日も会場に来ることができない方に、ライブ配信をしている。その都度、報道にも示して、市民にお知らせしているし、この案もホームページに掲載している。どこまで行えば充分であるかわからないが、最大限させていただいた上で、こうした話に来ている。ご理解いただきたいと思う。

参加者 結局言いたいのは、これが対象になるのは大人じゃなくて子どもだと思う。保護者と子どもがそれについて話をする機会はあるのかと。そういう面で、子どもがこういう紙を持って帰って、保護者とお話してくださいという機会を子どもに持たせないと、子どもはいつの間にか学校が統合して

いるということになる。主体は子どもじゃないのかとなった時に、どちらを優先させるのが本当なのかと思う。

市教委

子どもにも考える機会をという意見もよく分かる。しかし、大卒については大人が責任を持って決めないと、子どもが決めるのは難しい。大卒は大人が責任を持って決めて、その中で学校をどういう風にしていくと良いかなど学校生活については、子どもの意見を聞いていきたい。できる限り子どもにも情報を提供しながら進めていかなければいけないと思っている。

④閉会のあいさつ（事務局長）